

## 『IOSの臨床における可能性』

堤 厚人先生

藤松 剛先生

近年、デジタル化の速度が著しく進む中、各社メーカーから様々なデジタル機器がリリースされ、歯科医院、歯科技工所ではアナログからデジタルへと移行する準備が必要になっている。

しかし、デジタル化の成功には従来からの手技が最も重要で、そこに良い結果を出すための工夫を加えることがデジタル化のポイントとなる。全てをデジタルで行うことが正解かについては疑問が残るがデジタルをツールとして使用し、臨床の助けになるように取り入れてゆくことは必要だと考えている。

その中で、臨床で行っているデジタルツールの使用法及び考え方をお伝えしたい。